

1 学校教育目標
一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行い、将来の自立と社会参加をめざして主体的に学び、取り組む児童生徒を育成する。

2 本年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ○安全安心な教育環境づくり ○一人一人の自己肯定感を高める指導・支援の充実 ○職員の専門性の向上及び組織的な連携力の強化 ○保護者や関係機関との連携・支援の充実 ○卒業後の実生活を見据えたキャリア発達支援 ○共生社会の形成に向けた取組充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標・重点目標の具現化に向けた校務推進	重点目標を踏まえ、学校評価項目に基づいた分掌部活動の充実	重点目標の達成に向け、学校評価項目の具体的目標を確実に実践し、PDCAサイクルをまわしながら、全方位的に教育活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・業績評価の面談等において重点目標を踏まえた目標設定をしているか確認する。 ・前期の時点で、学校評価項目の進捗状況(成果と課題)を確認し、後期における改善点を明確にして実践し、より丁寧に分析する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の面談の際に、必要な場合には学校教育目標を意識して具体的目標設定できているか確認を入れることができた。 ・前期終了時、運営委員会にて、評価項目の達成状況を分掌部会で確認してもらったことで、目標を意識した後期の取組につなげてもらうことができた。
	働き方改革の推進	勤務時間の適正管理・教職員の意識改革	・職員の超過勤務時間について、昨年度の月平均約25時間を23時間台まで削減する。	・毎月の超過勤務状況をデータ化し、個々の状況に応じて業務配分等の見直しを実施し、平準化を進め、正規の勤務時間外従事を軽減する。	B	・職員の超過勤務については、長期休業中以外の月平均時間が昨年よりも約1時間多かった。今年度は主事部長が5名新しくなり、年度初めは特に超過勤務が増えた。体調等に影響が出てきていることはないが、決まった職員が超過勤務になっている。1週間の業務内容や勤務状況を鑑み、18時退勤日の曜日変更等も行い、定時退勤日の徹底を図る。
授業の充実	一人一人の教育的ニーズに応える指導・支援の充実	子どもの発達、学びに寄り添った自立活動の充実	自立活動をはじめ授業の改善と実践	・自立活動の個別の指導計画の作成と授業内容について月1回の学部研(またはチーム研)で検討する。	B	・今年度は記録用紙を作成したことで、計画的に授業を行うことができた。高等部は自立活動の時間の見直しを行った。指導計画の作成や見直しの時間を夏季休業中に設定したことで、話し合いの時間を

				<ul style="list-style-type: none"> 代表事例を選出し、自立活動の研究授業と授業研究会に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 十分確保することができた。 各学部配慮いただいたことで、多くの先生が授業参観することができた。授業研究会のやり方を変えたことで、短時間だがしっかり協議することができた。
			特別支援教育に関する専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 講師招聘研修会を年に3回実施する。 教師の困り感に寄り添った自主研修を企画する。 夏季休業中に、校内における教材教具展示会を実施する。 自立活動の教材を紹介できるツールを作成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2回実施することができた。1回は県のスキルアップ研修へ変更となった。 年3回を計画しており、現在1回開催できた。 工事等の関係で夏季休業中に行うことができなかった。Googleアプリを使って自立活動のサイトを作成し、その中に教材のページを作っていく。
キャリア教育 (進路指導)	卒業後の実生活を見据えたキャリア発達支援	卒業後の視点を大切にした教育活動の充実	卒業後の生活への向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進路先や現場実習先から挙げられた課題や要望をまとめ、周知する。 進路だよりで挨拶とお手伝いの重要性について情報発信をする。 長期休暇中等を利用して各学部で家庭でのお手伝いを推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みのフォローアップ調査の結果をまとめたり、過去3年の現場実習評価票で挙げられた課題について事業所毎にまとめたりして、先生方へ伝えることができた。 進路だよりで挨拶とお手伝いについて取り上げ、夏休みと冬休みには全学部で「お手伝い日記」の取組を行った。
		進路面談と情報提供の充実	進路に関する専門性の向上と保護者の思い添った情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> 講師招聘進路研修会を実施する。 保護者アンケートや面談で挙げられた進路に関する質問や資料提供の要望について、進路だよりで取り上げたり個別に回答したりする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 7月に、ライン工房の熊川施設長を招聘し、進路研修会を実施した。事後アンケートにおいても概ね好評であった。 保護者から挙げられた質問や情報提供の要望について、その都度対応した。PTA執行部からの要望があり、2月の授業参観の際に小中学部の保護者を対象とした進路研修会を実施する予定である。
		卒業生のアフターフォローの充実	職場定着率の向上した関係機連携	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の様子や課題について進路先や関係機関と情報共有し、学校の役割を確認しながら課題解決に向けて支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と情報共有を図りながら進路先や自宅の訪問、面談等を行った。離職に至ったケースもあったが、次の生活に繋げるための支援を行

						<p>った。過去3年の卒業生の離職者は、令和5年度1名（体調不良）、令和4年度1名（労働条件不満による転職）、令和3年度1名（体調不良）であった。</p>
生徒 (生活) 指導	他者との関わりをもった生活の楽しさを味わう	生徒会活動の充実	生徒会が中心となった、児童生徒の主体的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、学校生活目標の呼びかけ、掲示をし、各学部の取組を全校集会等で周知を行うことで、各学部間での連携を図り、児童生徒が見通しをもって自ら活動に取り組めるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学部を中心に毎月の生活目標の制作に取り組めた。目標達成が難しい月もあったため、毎月の目標内容を見直してもよかった。また、昇降口の掲示だけだとあまり見ない人もいたため、全校朝会后に各教室に配布する。 生徒会という意識をもっともたせるために（特に中学部）、週に数回挨拶運動等取り入れたらどうか。
		生徒指導内容の共通理解	生徒心得（中学部・高等部）の周知・徹底	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒心得について説明したり、各教室への掲示や生徒手帳を携帯したりする。 学部会や朝会、分掌部会で児童生徒の様子について共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に生徒心得について生徒に周知した。各クラスに配布し、長期休業前に再度確認を促すことで共通して指導を行うことができた。 生徒心得の見直しについては職員に周知したが、徹底されていないところがあった。（服装について） 分掌部会では学部を超えて生徒の情報共有を行った。
	安全安心な通学	安全安心な自力通学	自力通学への通学指導や通学ルールの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に通学指導を行い、自力通学生を招集し、通学状況の確認や指導に努める。 事故の被害や加害にあった場合等を想定し、具体的対処法に関する指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学生を中心にヘルメットの重要性、事故を想定した指導を行うことができた。 定例通学指導や状況に応じて自力通学生徒への交通ルールの遵守、指導等行うことができた。
人権教育の推進	命を大切に する教育の 充実	「生命を大切に する心」を育む 日々の指導 支援	生命のすばらしさや尊 さを 知り、生命を大切 にする取組の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 「いのちを大切に する週間」を設定し、各学部・学年・学級ごとに児童生徒の実態に応じた授業を 実践する。 校長による、命（いのち）に関する講話を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いのちを大切に する週間においては「命の大切さ」に 焦点を当てて、各学部やグループ毎に 特設した授業を実施することができた。 ・「人権週間」での動画の視聴や「人権集 会」を通して、自分や他者を大切に する心情を育むことができた。

	人権教育に関する職員研修の充実	人権問題の基本的認識と実践的指導力の向上	校内研修の回数と意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修を3回（講師招聘研修含む）、グループ別研修を2回実施し、人権教育の目標等に関する共通理解を図り、児童生徒の人権を尊重した関わり方等についての指導・支援について検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全体研修では人権教育の目標や年間計画、安心・安全な学校づくりに関する共通理解を図った。講師招聘研修では性的マイノリティや多様な性に対する理解を深めた。 7月、12月の2回グループ研修を実施することができた。人権尊重の視点に立った授業づくりのポイントを学び、実践の充実につなげることができた。また、児童生徒一人一人の人権を尊重したかわりや教育実践ができているか共通理解を図った。
いじめの防止等	いじめ防止等の対策における組織の充実	毎学期の対策委員会と職員への研修や周知の実施	各委員会及び校内研修の実施による対応等の共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止対策委員会」を年3回実施し、取組の評価や見直しを行うとともに、委員会の内容を確実に全職員へ周知する。また、職員研修でアンケート集計結果や事例、共通した入力シートを使い共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止等対策委員会を年に3回計画し、実施している。外部専門家から本校の取組について指導助言を受け、いじめの解消に向けて取り組むことができた。連絡会や、職員研修でもいじめ防止について周知し、組織で対応して取り組むことができた。
		全児童生徒の思いと現状の把握	「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」「相談できる」学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「生活アンケート」「心のアンケート」を実施し、児童生徒の実態把握に努め、気になる回答は個別面談等を通して丁寧な指導支援に努める。 職員の入力シートを準備し、いじめ事案と考えられる気付き等を共有し現状把握に努める。 人権教育やいのちの授業を通して、「一人で抱え込まない」相談できる先生を各学年や学級で明確にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学部はアンケートの記入が難しい生徒が多い。記入が難しい児童生徒は、面談等で保護者に家庭での様子から気になること等をお聞きするようにと改めて学部の職員に周知したことで、保護者と共通理解を図り、児童生徒の様子を知ることができた。 アンケートを定期的実施することで職員もアンテナを高く張り、生徒もいじめについて意識が高くなりつつある。
センタ－的機能と段階的支援体制	地域支援の充実	担当エリアの小学校・中学校・高等学校等への支援	巡回相談及び研修等の協力	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容について児童生徒の観察をし、要因や背景、教育的ニーズに応じた最適な支援について検討したり助言をしたりする。 阿蘇郡市特別支援 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担当5町村の小中高の巡回相談に応じた。（1月末現在86件）UDの視点での授業づくりや個別の配慮や手だてを助言した。研修依頼では13件の講話や事例検討会を行った。 指導力向上研修第IV

				<p>学級等担当者の指導力向上研修を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔陽高校での「通級による指導」のサポートを行う。 		<p>期を8月にステップ1（対面研修）、9月にステップ2（本校での実地研修）を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翔陽高校の「通級による指導」に係る生徒のケース会議や巡回相談に行った。個別の教育支援計画や個別の指導計画の助言を行った。
	適切な学びの場の選択に向けた教育相談の充実	相談者のニーズに応じた教育相談の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで教育相談の目的や手続き等を周知する。 ・就学に関するこれまでのプロセスや巡回相談の活用の有無等を事前に確認する。 ・教育相談の際には、実態の聞き取りを行い本校の教育課程等を説明する。相談記録を教育支援部長・CO・管理職で供覧する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部主事が相談に応じた。幼児児童生徒の実態を聞き取るとともに、本校の教育課程の説明、学習や生活の様子について校内の見学、通学方法の確認等を行った。学部主事の教育相談の記録は、教育支援部部長、CO、管理職で供覧をした。（12月現在小学部34件、中学部32件、高等部88件）
校内支援の充実	特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援の充実	関係機関と連携した支援		<ul style="list-style-type: none"> ・段階的な支援体制を構築しながら、必要に応じて積極的にケース会議等を実施する。その際、学部・学校全体で情報共有を図る。 ・夏季休業中に学園訪問を実施し、施設入所生の情報を共有する。その際、関係機関との連携窓口は一本化する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的な支援体制については、担任や子どものニーズに応じ、共通理解の場や支援の在り方等について検討する場を設定することができた。また、ケースに応じ、外部機関も交えたケース会議を開催する等迅速に対応することができた。必要に応じて、学部・全体での情報共有を行うことができた。 ・学園訪問では、学園の概要を聞いたり、子どもたちの生活の場を直接見たりすることができ、情報を共有することができた。
		一人の子どもを多くのかかる教員での事例検討の実施		<ul style="list-style-type: none"> ・学部裁量の時間等を活用して、子どもの支援で困っていること等を学部内で検討し、共通理解を図る事例検討を実施する。事例検討の方法について教育支援部より提示する。 ・校内研修を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの支援について関係学年で検討を行い、学部で共有することができた事例もあったが、学部内での情報共有にとどまり、事例検討まではいかなかった。 ・子どもへの関わりについて、ケース会議についての研修を行うことができた。

地域連携(コミュニティスクールなど)	総合型コミュニティスクールの推進	地域との連携	保護者や地域の方々(行政、福祉、教育の各機関)との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・就労関係機関の委員も招聘をし、進路指導等も含めた幅広い視点からの学校運営に関して協議をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会を3回実施し、本校教育活動について説明した。今年度は生徒会も参加し、ジュニアリーダー夢議会の提案等を踏まえた生徒の考えや気づきも知ってもらい、今後の取組につながるよう行政、福祉等様々な立場から御意見や感想をもらった。
教育の情報化	ICT活用推進	iPad及び電子黒板を用いた授業の活性化	電子情報及び個人の情報適切な取扱いを始めることにより、セキュリティ面を配慮しながら、教材の共有化、教育目標を達成する授業の効率化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育の年間指導計画を精査しながら、情報教育における課題に関連する資料・情報を共有し、授業実践の好事例を共有する。 ・タブレット端末での課題作成、自己評価及び他者評価する機会(児童生徒の感想を聞き取るなどの機会)の創出等の好事例を共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員連絡会を通して情報教育における課題に関連する資料・情報を3度共有し、好事例を生かした授業の実践が各学部で共有された。 ・情報教育の年間指導計画通りの実践には困難さがあった。 ・校内ICT研修会において、教職員のニーズに応じてグループ別を実施しそれぞれのグループで好事例を共有できたが、他グループの実践については共有できなかった。
	校務の効率化	統計データに基づく所要時間の短縮が見込める業務に係るツール開発	授業準備及び授業改善に活用される情報管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadOSで作成した教材を共有する手順を整理し、データ検索のしやすさを高める。 ・各学部におけるニーズ調査に基づき、自立活動及び各教科等における手立てツールを開発に向けて他分掌部と協同して解決策を練る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員が作成したiPadOS教材を教職員共有iMacで共有する環境を整備した。 ・研究部と連携し、「自立活動ページ」サイトを立ち上げ、実践を共有することができた。手立てのとりまとめについて方向性が定まらず、ツール開発まで至らなかった。
環境教育	「花とみどりの美しい学校づくり」の推進	環境美化活動の推進	児童生徒や職員による環境美化への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒による清掃活動に毎日取り組む。 ・児童生徒と季節に応じて花壇に花苗等を植える。 ・月1回の職員掃除と職員作業、安全点検を計画的に実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に掃除用具補充を行うことができ、児童生徒が毎日清掃活動に取り組むことができた。 ・高等部園芸班を中心に花を植えることができた。 ・職員掃除の実施する時間帯を見直し、安全点検後に行うことで、掃除の時間を確保することができた。

		学校版 I S O の周知と日常的な取組	<p>ゴミの分別や節水、節電等、環境にやさしい取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や各学部でポスターを作成・掲示し、児童生徒へ「節水・節電・ゴミの削減」を呼びかける。 ・職員の個人ゴミの持ち帰りを推進する。 ・ゴミの分別のためのゴミ箱を設置する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会等において、節電、節水のイラスト表示を作成した。電気のスイッチや蛇口近くに掲示し、呼びかけることができた。 ・衛生的に保つため、職員室のゴミ箱を可燃物のみにし、個人ゴミの持ち帰りが推進された。 ・プラスチック専用のゴミ箱を各学部を設置し、分別することができた。
--	--	----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>4 学校関係者評価</p> <p>※外部関係者(学校運営協議会委員)による意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部と室小、中学部と北中の交流が行われており、障害者理解につながる取り組みは素晴らしいと思う。その素晴らしい取り組みを県立校同士である翔陽高校と高等部の交流も出来ると良いと思う。そうすることで、小中高の(6+3+3=12年間)の一貫した交流につながると思う。 ・貴校に対する周囲の評価は、「児童、生徒の数が増えている。」というところに顕著に表れていると思う。とても素晴らしいことだと思う。一方で、児童生徒数の割には、敷地が狭く、先生方は非常にご苦労、また工夫されていることと思う。 ・小中学校への、特別支援教育に掛かる日々の視点や具体的な在り方について、今後も、ご助言等をお願いしたい。また、進学に掛かる多様な要望も増えており、その面に掛かる関係機関等や保護者への助言等の機会を増やしてほしい。 ・コロナ過も5類になり、通常の活動や行事が行われるようになったので、今まで以上の地域交流活動などに期待する。 ・2024に自殺した小中学生は527人と過去最高となった。原因や動機は分からないことが多いようだが、子どもの場合は、「いじめと学校や家庭環境」など、複数の悩みが絡み合っているものだと思う。学校や一般社会で少しでも予防できる教育があればよいと痛感している。本校での人権教育の推進の向上を期待している。

<p>5 総合評価</p> <p><学校教育目標について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の自立と社会参加を意識した学習活動を進路指導部が中心となって各学部の実態に合わせ段階的に取り組んだことで、児童生徒一人一人が課題克服のために主体的に学習に参加する姿が見られた。 <p><本年度の重点目標について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師招聘研修、人権啓発福祉センターでの現地研修、グループ研修等、昨年度に引き続き研修を増やし、人権に関する知的理解の深化を図った。今年度は、職員同士も「お互いを知る」というテーマを掲げ、学部間の職員が意見交換をする機会を増やし、児童生徒との適切なかかわり方や、自己肯定感を高める指導・支援について語り合うことを通して、人権感覚の涵養につなげた。人権教育に関しては、指導案や授業計画等に、人権教育の視点を入れて作成したり、その授業の様子等を保護者へ発信したりすることを通して、職員の人権感覚をさらに磨き、児童生徒とのかかわり、職員同士のかかわりに生かすことができた。 ・就労支援強化策、生涯学習への意欲を高めることができる教育活動の充実を図るために、本校生徒の就労先の事業所の学校見学、講師招聘研修等を昨年度に引き続き、継続的に企画した。事業所や企業との交流を深め、地域と連携した教育活動の推進、職員の進路に関する専門性の向上、卒業後の実生活を見据えたキャリア発達支援教育につなげた。保護者対象の進路研修を各学部段階に合わせて、授業参観時に実施し、多くの保護者の参加があり、保護者の意識の高まりも見られた。 <p><自己評価総括に対する評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習を含め、地域の学校や事業所、施設等での学びの機会が増えた。地域とのつながりを意識した学習計画を増やした。学校間交流では、お互いの学校を行き来し、ポッチャでの交流を行ったり、高校の文化祭には本校高等部の作業製品の展示をしたりしたことで、地域の方に本校の取り組みを知っていただくことができた。また、学校運営協議会に、生徒会のメンバーも参加し、町のジュニアリーダー夢議会での提案した内容を発表し、よりよい天津町にするために何ができるかみんなで考える機会を作った。生徒の頑張りを知っていただく機会にもなり

- ・地域との連携を深め、本校教育活動を充実させることにもつながった。
- ・特別支援コーディネーターの丁寧な巡回相談が好評で、巡回相談の活用数も昨年に比べても増加している。巡回相談等を活用しないまま、特別支援学校へ転学を希望する事案が増加しており、適正就学、段階的な支援のPRが必要であると昨年度の課題に挙げていた部分に関しては、巡回相談、教育相談の依頼があった折に丁寧に説明し、就学についての理解を図ることができた。
- ・教育の情報化の視点では、授業準備及び授業改善に活かされるよう情報管理体制及び推進体制が整ってきており、研究部と連携し、「自立活動ページ」サイトを立ち上げ、実践を共有することができた。今後も自立活動の指導力向上につながるよう更に内容の充実を図りたい。

6 次年度への課題・改善方策

- ・働き方改革として、業務量の平準化と併せて、週1回の定時退勤の徹底を図ったが、今年度は分掌部長や主事が5人ほど新しくなっており、時間外勤務時間削減には課題も残った。試験的に定時退勤日の曜日を水曜日ではなく、定時退勤しやすい金曜日に変更し、検証していく。また、引き続き、管理職だけでなく、学部主事からも定時退勤の声掛けや、帰る前に職員に声をかける等の働きかけを行う。
- ・今年度は、スクールカウンセラーが年間24時間配置されたが、年度途中で時数が不足し、更に12時間追加することとなった。生徒本人及び児童生徒の保護者の相談内容も多岐に渡り、様々な課題を抱えている保護者も増加している現状もあり、保護者支援の面でもスクールカウンセラーの相談活動の充実を図る必要がある。学校だけでは解決できない問題も増加し、医療や福祉との連携も必要不可欠である。自傷、他害がある児童生徒も年々増えており、職員や児童生徒が安心安全に学校生活を送ることができるように、スクールサポーターや警察とも連携しながら対応する必要がある。